

明治に活躍した館山ゆかりの人びと①

近代水産業の先駆者・関澤明清と殖産興業ネットワーク

2014年9月18日(木) 13:30~15:30

渚の博物館レクチャールーム 参加費無料

講師：吉道 悦子(金沢工業大学教授)

愛沢 伸雄(NPO法人安房文化遺産フォーラム代表)

主催：NPO法人安房文化遺産フォーラム 問合せ：090-6479-3498

館山湾に面した北下台(ぼっけだい)に建つ巨大な顕彰碑には、「此碑は水産家関澤明清君の功績を不朽に伝ふる為、明治30年同志460名より拠出の資金壹千有余円を以て建碑に着手し、同32年5月に竣工す」と刻まれています。

1843(天保14)年加賀藩に生まれ、幕末の江戸で大村益次郎らに蘭学・航海術を学び、藩の密命を受けて渡英。維新後は明治政府の事務官として、ウィーンやフィラデルフィア万国博覧会に参加。欧米の進んだ水産技術に衝撃を受け、水産業振興策は日本の重要施策と考え、アメリカ式近代捕鯨やサケ・マスの人工ふ化、缶詰製造法を習得し、日本に導入しました。鰯が不漁となった九十九里海岸で、アメリカ式中着網と従来の揚繰網を折衷した改良揚繰網漁法を導入し、全国の沿岸漁業に大きな影響をもたらしました。

また、水産教育の重要性を説き、1889(明治22)年に水産伝習所の初代所長に就任して後進の育成に精力を注いだ。後に、水産講習所、東京水産大学、東京海洋大学となる前身です。青木繁《海の幸》誕生の家で知られる布良の小谷家からは、1890(明治23)年の関澤直筆と思われる書簡が見つ



かっています。これによれば、伝習所の実習で生徒がお世話になったお礼として『日本重要水産動植物図』を贈呈する旨が記され、額装されたカラー印刷の魚貝図3枚が残されています。

その後、自ら館山に居住し関澤水産製造所を設立、勝山の捕鯨船団・醍醐新兵衛と組んでの捕鯨や、遠洋漁業の事業を興しました。1897(明治30)年に関澤が亡くなってから4年後に水産講習所の館山実習場が開かれ、今に至っています。遺志を継いだ弟の鏑木余三郎(赤門整形外科内科の鈴木勝前院長の祖父)は、関澤が建造した「豊津丸」でベーリング海のオットセイ漁に成功。神田吉右衛門や小原金治らとともに、房総遠洋漁業会社(後の東海漁業)を設立し、冬はマグロ漁、夏は捕鯨やオットセイ漁をおこないました。

国会議員でもあった小原金治は、房州白土会社や安房銀行設立にも尽力しており、銀座資生堂の創業者・福原有信などとともに安房の殖産興業に貢献するネットワークを築いています。



予 告

明治に活躍した館山ゆかりの人びと② 福原有信と渋沢栄一をめぐって

12月7日(日) 13:30~15:30 館山商工会館大ホール

講師：井上潤(渋沢史料館館長)